

## 令和元年度 第1回小山町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和元年 11月18日(月) 午後3時00分開会  
午後4時45分閉会
- 2 開催場所 小山町役場 301会議室
- 3 出席者 池谷晴一町長、天野文子教育長、稲恵子教育委員、  
相原正和教育委員、湯山伸彦教育委員、山岸繁子教育委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席した事務局職員等  
湯山博一企画総務部長、長田忠典教育次長、大庭和広こども育成課長、  
平野正紀生涯学習課長、田中清子学校教育専門監、  
後藤伸恵こども育成課課長補佐、  
小野正彦町長戦略課長、藤曲喜久町長戦略課課長補佐
- 6 傍聴人の人数 2人
- 7 報道機関の人数 1人
- 8 会議次第
  - 1 開会
  - 2 町長あいさつ
  - 3 教育長あいさつ
  - 4 会議事項
    - ・(教育委員会より報告) 小山町の教育事情について
    - ・学校施設の今後の方針について
  - 5 その他
  - 6 閉会

## 9 会議記録

### 1 開会

町長戦略課長

定刻となりましたので、ただいまから令和元年度第1回小山町総合教育会議を開会いたします。私は、本日の会議の進行を務めます、町長戦略課長の小野と申します。よろしくお願いいたします。

### 2 町長あいさつ

町長戦略課長

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、池谷町長にごあいさつをお願いします。

町長

こんにちは。本日は天野教育長様はじめ、教育委員の皆様には、大変お忙しい中をご出席いただきましてありがとうございます。私が5月に小山町長に就任いたしまして、初めての総合教育会議ということになります。また、令和に入って初めての会議ということでございます。何卒よろしくお願いいたします。

まず、「教育に関して」でございますけれども、私は選挙の時も申し上げてまいりました私の公約の大きな柱の一つが、「学んで良し、育てて良し」という小山町を作っていきたい、ということでございます。公約にもありますので、その実現を是非図ってまいりたいと考えておりますし、私、実は御殿場市役所に26年8ヶ月おりましたけれども、その最後の勤務先が教育委員会・社会教育課ということでございまして、社会教育の立場から子ども達の教育等々について色々携わってきたという経緯もございます。その点も是非、皆様にはご理解いただきたいと思います。

本日の会議におきましては、教育委員会の方から、現在の小山町の教育の現状ということで、次第にもありますけれども、お話をしていただけるということでございます。また、今、色々問題になっております「学校施設等について」その整備等々、今後の方針を議論させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。この具体的な方策を、相互に議論を戦わせることによりまして、実効性のある取組が出来ていくんじゃないかな、というふうに考えております。また、せっかくの機会でございますので、次第以外にも色々な教育について皆様のお考えがあるかと思っております。有意義な意見交換ができれば、と考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上、あいさつに替えさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

### 3 教育長あいさつ

#### 町長戦略課長

ありがとうございました。続きまして、天野教育長にごあいさつをお願いします。

#### 教育長

改めまして、みなさんこんにちは。本日は、(令和に入って)初めての教育会議になりますが、今まで感じましたことを少し話しますと、小山町は「子供たちが育つ」ということに関して、教育には理解をいただいております。特に教育行政につきましては、大きな応援もありまして、教育環境を整えたり、また、学校の中のソフト面でも、非常に援助をいただいたりしております。大変ありがたいと思っております。

教育というのは、「中立性」「安定性」、そして「持続性」としまして、持続可能なものであることが一番良い教育を生み出すと言われております。是非、そんな視点も持ちまして、今日は話が出来ればいいな、と思っております。やはり二宮尊徳さんが「道徳なき経済は罪悪、経済なき道徳は絵空事である」と仰っていたとおり、経済と教育は相まってやっつけていかなければならないと常々感じております。ただ、理念・倫理だけでは人は生きていけない。そのあたりも考えながら今日も話をしていきたいと思っております。

比較的、小山町の子供も達は安定してござりまして、それには大きな地域の協力というものが勿論ありますし、家庭の教育力というのもまだまだ得られているのかな、と思っておりますが、今、価値観が大きく変わってきてござりまして、教育の現場でも本当に色々な多様な考え方で、教員も対応していかなければならないことが多くあります。「こうだからこうだ」だけでは済まされない部分がありますが、そういう中で是非、「子供のために」「いつも子供を核に置いて」「中心に置いて」子供のための教育を進めようということでござりしております。子供もが育つということ、子供もがこれからより不安な時代だとか、ソサイエティ 5.0 とか、SDG s の話もあるわけですけども、そういう中에서도子供も達が安定的に育つことが最も大事なことなのではないかな、と思っております。中でも、今後 A I の時代になると脅されてござりますが、やはり A I の時代は、読解力が無ければ生き抜いて行けないんだということは、学者によってしっかり言われてござりますので、安定的な教育ができることを望んでござります。

今日はこの会議によりまして、明るい未来を描くことができたり、子供も達が夢や希望を持ったりするようなものになっていくことを期待いたしまして、私のあいさつといたします。

## 4 会議事項

### 町長戦略課長

ありがとうございました。次に、次第の「4 会議事項」に移ります。ここからの議事進行は、座長であります町長にお願いいたします。

### 町長

それでは、これから私が議事を進行させていただきたいと思います。

はじめに、小山町の教育事情につきまして、教育委員会の方から報告をいただきたいと思えます。よろしく申し上げます。

### 教育次長

それでは、教育委員会の方から、小山町の教育事情ということで、まちの取組について説明させていただきます。

まずはハード面とソフト面ということで、少々長くなりますけれども、お配りいたしました「小・中学校トイレ改修工事について」という資料でハード面について4点ほど、それからソフト面について5点ほど説明をさせていただきます。

資料の1ページ目をご覧ください。ハード面についてであります。はじめに「小・中学校のトイレの改修工事について」でありますけれども、こちらについて、これまで教育委員会の方でハードの整備を進めてまいりました。ご覧のとおり、「和便器を洋便器に替える」というのが主な内容でございます。2の内容に書いてありますとおり、平成25年度の成美小学校・須走中学校の改修からはじめ、その後、工事費・お金がかかるということで、年度毎少しずつ平成29年度まで進めてきたところでありますけれども、平成30年度に一斉に、市町村振興協会の交付金や教育振興基金を使わせていただいて、大幅に洋式化を進めました。成美・明倫・足柄・北郷・小山中・北郷中で合計いたしますと、約9,400万円弱の金額で洋式化を進めたところであります。

次に2ページ目をご覧ください。2ページ目のハード事業といたしまして、平成30年度と令和元年度の2ヶ年で、小・中学校、幼稚園、こども園に空調設備を整備いたしました。ちなみに、町立の保育園と学童につきましては、エアコンについては設置済みでございます。こちらの整備状況につきましては、資料に書いてありますとおり、小学校5校において、普通教室・特別教室・その他ということです。その他というのはランチルームとか図書室ですとか、そういったところも含めて、でございます。ここで須走中が無いのは、他の学校に先駆けてエアコンが入っているからでございます。更に、駿河小山幼稚園、足柄幼稚園、須走幼稚園、きたごうこども園ということで、ご覧のとおりでございます。こちらの工事費の方がかなりの金額になっていまして、合わせて4億3千2百万円の費用をかけました。平成30年度と令和元年度に整備をさせていただ

き、試運転も含め、夏場に使える状況でございました。もう既に11月ではございますけれども、工事の方も終わっておりまして、こちらにつきましては、国の交付金を7千8百万円弱の交付決定を受けまして、整備をさせていただいたところでもあります。

次に3ページ目をご覧ください。「小・中学校ICT機器導入・無線LAN環境の構築について」であります。概要1に書いてありますとおり、ICT機器、つまりタブレットですとか、そういったものを使っての教育につきまして、これまでの教科書を中心とした授業から「主体的・対話的な学習」をするために、児童・生徒が考えを集約したり、課題解決に向けて協働的に学んだり、自分の考えを学級全体に発表したりすることで、対話的で協働的な授業が効果的・効率的にできるということで、タブレットを使っているところでございます。

町内の小・中学校については、今までタブレットは無かったわけですが、ここで、本年度タブレット端末の整備をいたしております。資料の下線で書いてありますとおり、タブレット端末につきましては、マイクロソフト社のSurface（サーフェイス）を導入いたしまして、小学校にはちょっと小さめの10インチのものを、4年生から6年生まで1人1台ずつ使えるように導入いたしております。また、中学校には一回り大きめの12インチのものを、全生徒が1人1台使えるように導入いたしております。合わせて、先生方にもタブレットを配布いたしております。

このタブレットには、学習支援ソフトとして、大手ベネッセコーポレーションの「ミライシード」というソフトを導入いたしまして、個別のドリル学習なんかもできるようにしていきます。なお、下線部に書いてありますとおり、ベネッセのほうからICTの支援員が派遣されます。先生方の中にも、こういったICT機器に長けている方もいらっしゃるかと思いますけれども、慣れない先生方にもICTの支援員の方が、困った時にすぐに支援に来られるということのメリットがございまして、そういった研修なんかも行い、教員のスキルアップも図っていきます。まだタブレットの配備は完全ではないんですけれど、ほぼ全小中学校に配備しているところでございますので、教員のスキルアップと共に授業の中で使っていきます。2の内容につきましては、購入した物品の一覧でございます。

次の4ページは、それぞれの小・中学校の細かな配置の数であります。それと、中ほどに「3」と書いてございますのは、これらの機器を使うにあたりまして、小中学校における校内無線LAN（Wi-Fi）環境整備も行いました。こちらは、普通教室・支援学級・特別教室、更には、一番下書いてありますけれども、避難所となっている体育館のほうでも使えるように整備が整っております。普段は災害用のフリーWi-Fiは使えないのですが、切り替えを行うことによりまして、避難所を開設した際には、災害用のフリーWi-Fiを使うように整備をいたしております。下の表は、それら整備状況の一覧ですので、またご覧になっていただきたいと思います。

隣の4-1ページにつきましては、静岡県下の整備状況を示したものです。上半分のグラフにおきましては、緑色の部分が「目標値」と書いてありますとおり、国の教育振興基本計画における国の目標値であります。例を挙げますと、教育用コンピューターについては、3人に1台は配備をした方がよいというような目標値であります。これに対しまして、静岡県の平成30年度の数値ですけれども、静岡県では5.5人に1台ということで、まだ目標値には達していません。小山町におきましては、ここで配備しまして、赤字で書いてありますけれども、1.37人に1台配備されているということで、当然、この3人に1台という目標値を大きく上回っております。次に下のグラフですけれども、これも平成30年度中のものですが、県内市町の状況です。川根本町がズバ抜けておりまして、1人1台配備をしております。小山町は右から6番目のグラフになりますけれども、令和元年度に配備する前は緑色で示される目標値よりも下でしたが、本年度配備したことにより、グラフに赤い部分が付け加えられて、この目標を超えて1.37人に1台の配備となったという状況であります。

次に資料の5ページ目です。ハード面とソフト面を含めて、小山町の幼児教育及び保育の充実に向けて整備したことについてご説明させていただきます。町では総合計画後期基本計画の重点施策として、「子ども・子育て支援の充実を図る」ことを掲げ、「町内全域におけるこども園化を推進し、幼児施設の環境整備を図る」こととしています。これに基づきまして、令和2年度から、町立の幼稚園及び保育園を幼保連携型の認定こども園といたします。こども園は、幼稚園・保育園のそれぞれの良い所を生かして、また、保護者の就労等に関わりなく、一貫した幼児教育・保育を受けることができるというメリットがございます。これまでこども園化に向けて町で進めてきたことは以下に書いてあるとおりで、平成26年度に北郷地区におきまして、きたごうこども園を開園いたしました。次に足柄地区におきましては、私立ですけれども、菜の花こども園が開園いたしております。この平成26年度のきたごうこども園の開園を期に、今までは幼稚園と保育園で先生方の会もそれぞれであったところを、「小山町 幼保の会」といたしまして、同一歩調、共通理解を持って小山町の幼児教育を推進していくこととしております。なお、先ほど申し上げましたとおり、平成28年度に菜の花こども園が開園してからは、この幼保の会に入らせていただきまして、まちの幼児教育の指針等々について、承知をさせていただいております。幼児教育のカリキュラムについては、3～5歳児の午前中の4時間を共通のカリキュラムに沿って行い、また、各園が年に1回、公開保育を実施しております。毎月1回はどこかの園で公開保育を行い、代表が来ていただいて幼児教育をそれぞれ学び合っております。また、その研修実践をまとめ、1年に1回、全員で研修することとなっております。また、ソフト面といたしまして、職員の採用時におきましては、幼稚園教諭と保育士の両方を有するものを採用いたしてお

ります。また、人事においては、幼稚園・保育園問わず全ての園で勤務可能として配属いたしております。

続いて6ページ目。本年度は、令和2年度からのこども園化に向けて準備をしている訳でございますけれども、その令和2年度以降についてご説明いたしますと、町立の幼稚園におきましては、現園舎を利用してこども園化を進めていきます。施設整備となりますと、経費の面でもかかりますし、幼児教育の無償化等々もありますので、今の施設を活用した中でのこども園化を進めていきます。成美地区におきましては、するがおやまこども園として、3歳未満児におきましてはいきど保育園園舎、3歳以上児を駿河小山幼稚園舎で預かって、分離型ではありますけれども、こども園を運営していきます。登降園についてはこちらに記載のとおりであります。明倫地区におきましては、すがぬまこども園として運営していきます。今までは明倫地区の方で、駿河小山幼稚園のほうにマイクロバスを使って移動しておりましたけれども、今後は明倫地区の方はすがぬまこども園のほうに通うことができます。なお新たに施設整備といたしまして、現在のすがぬま保育園のところではなく、小山消防署の前になりますけれども、そちらのほうに、令和3年度から運営できるように建設等を進めております。更に、須走地区におきましては、やはり現園舎を使ってすばしりこども園を分離型ではありますけれども、行っていきます。同様に、すばしり保育園園舎につきましては3歳未満児、須走幼稚園舎においては3歳以上児を預かって、それぞれ行います。

次に(2)については、私立のこども園の整備も進んでおります。事業者は、社会福祉法人寿康会であります。御殿場の駅裏付近でありますけれども、みらい保育園を運営している法人であります。上野地先に私立の認定こども園を、こちら令和2年の4月開園を目指して、今現在建設中であります。施設の内容としましては、平屋建ての園舎でありまして、特徴としましては、休日保育と病児保育を行うということで、定員は90人を予定しております。

1点、するがおやまこども園の通園について補足いたします。兄弟につきましては、一緒にいきど保育園舎のほうで登降園していただきます。また、3歳以上児の長時間利用児につきましては、バスで第2園舎の方に移動いたします。そして、またいきど保育園舎に戻りまして降園まで過ごしてもらって保護者のお迎えを待つ、というようになります。

続いて、ソフト面の1点目ということで7ページをご覧ください。町としては、子育て支援の充実ということで、給食費の無償化を、この平成31年度4月から行っております。10月1日からは幼児教育・保育無償化に伴い、本来別途徴収することでありました保育園、こども園の長時間利用児におきましても、給食費を無償化といたしております。ちなみに、今までの小学校・中学校・幼稚園にかかる年間の費用は、こちらに記載のとおりであります。小山町の予算といたし

ましては7千8百35万円を予算化いたしまして、小学校・中学校・幼稚園の給食費につきましては、賄材料費として予算化をして、その材料費を支出しております。

なお、学校給食無償化等の実施状況でありますけれども、これを実施している自治体については、全国の中で76自治体、うち71自治体が町村であり、また人口1万人未満の自治体が56自治体であります。学校給食の無償化を行っているのは、県内では小山町のみ、ということになります。

続いて、ソフト面の2点目ということで8ページをご覧ください。こちらは、ソフト面として中学生の英検の受験料について、町では全額補助をしております。その受験料というのが、9ページの表の下に書いてあるとおりとなります。ちなみに2級ですと1回に5,400円の負担がありますけれども、町としましては英語検定を出来るだけ受けてもらって、“生徒が英語の力をつける”ということを目的にこの金額を補助しております。9ページではその合計ということで、平成30年度では合計で1,642,700円を補助しております。

左側（8ページ）の表は、各中学校の第1回から第3回の実施状況であります。合計で516人が受験をいたしまして、合格者が201名、合格率が39%ということで、これは全体の数字です。これを級で見ますと、合計欄の一番下に書いてありますとおり、やはり2級はなかなか難しいということで0%、準2級で16%、3級で40%、4級で42%、5級が83%という合格率となっております。特筆すべきことは、本当に難関な2級に5人もチャレンジしているということで、確かに合格率は0%ではございますけれども、そういったところまでレベルが上がって来ているのかな、というように考えられます。

次のソフト面についてでありますけれども、色刷りの「小山町の教育」をご覧ください。全国学力・学習状況調査でありますけれども、調査の概要に書いてありますとおり、今年の4月18日に行ったのですが、小学校6年生と中学校3年生が対象です。資料がないんですけれども、ソフト面といたしまして、小学校5年生、それから中学校1年生と2年生におきましては、全教科の学力診断テストを小山町独自で行っております。これは小山町独自で行って分析をし、個々の課題を明確化しているところであります。そういった成果もありまして、小学校の調査の分析結果につきましては、表面の下のほうに書いてあるとおりであります。最後に書いてありますけれども、「自分の伝えたいことを明確にして、自分の考えを書くこと」が、学力調査の中では共通の課題となっております。

開いてもらって見開きのページになりますけれども、こちらは生活習慣や学習環境に対する調査によりまして、小山町の子どもの姿について書いてございます。正答率の高い児童・生徒につきましては、左側に書いてありますとおり、このような傾向がみられるということになります。



一例として挙げますと、決まった時刻に就寝・起床をしている、こういった事が挙げられます。他の傾向については、また後でご覧になってください。

最後のページですけれども、こちらは中学校の調査結果からの分析であります。中学校は国語・数学・英語になりますけれども、それぞれにおける成果と課題がございます。先ほども申し上げましたが、英語については調査結果から、かなりの成果が出ていると聞いております。

それでは先ほどの資料に戻っていただきまして、ソフト面ということで 10 ページになります。小山町では、ふるさと金太郎博士事業を行っています。こちらについては、小山町内の小中学生が、我が町を知り、愛し、やがてはふるさとを誇りに思う人になって欲しいということで、対象の児童・生徒が自主的に地域と関わる活動を応援する事業であります。(次長が、皆の前で実物を見せながら・・・) こういった金太郎手帳というものを小中学校の皆さんに配っており、昨年度は4月から準備・広報等をしまして、7月からではありますけれども、実施をしたところでございます。

10 ページの中ほどからですが、参加方法といたしましては、これは学校行事とは違しまして、地区の行事、企業見学、それから町が主催している事業・イベント等、そういった行事に参加してもらいます。その行事の一覧につきましては、この資料には無いんですけれども、各学校のほうに、地区行事等々を時期も含めてお知らせ・周知をしているところであります。

そのポイントにつきましては、通常の参加をした場合に1ポイント、自主的に参加をした場合には2ポイント、また、例に書いてありますとおり、町立図書館にあります読書通帳を1冊終了した際には5ポイントといったようにポイントを付与しております。それで、そのポイントが増えていった場合、下に書いてありますとおり、“認定”の賞をそれぞれポイントごとに設けています。銅賞が30ポイントで、銀、金と上がっていきまして、博士号150ポイント、名誉博士が250ポイントになります。なお、先ほど7月からという説明をしましたが、途中ということで、中学3年生は120ポイントを、その他それぞれのポイントを付与して昨年度は実施したところであります。その結果が11ページにまとめてあります。ふるさと金太郎博士のポイント認定者につきましては、下の表になります。銅賞が37人おりまして、特に須走中学校では、それぞれ地区の行事等に参加していただいて、たった1年ではありましたが、なんと金賞と博士号が出た、ということでもあります。上の表については、活動を一回でもしてくれている子の活動割合が、学年別と全体で出ております。小学校全体では86.8%、中学校全体では75.3%ということで、今年度はここを何とか上げていって100%を目指し、子ども達がたくさん活動してくれるよう、周知徹底をしているところです。

そういった事で、教育委員会としての色々なソフト事業について、説明させていただきました。

あと、今日の資料には無いんですけども、学校におきましては人的支援ということで、教育委員会といたしまして、先生を手助けする町単独講師ですとか、支援員を配置しております。また、昨年の総合教育会議の中で、教育長が申しあげました臨床心理士の配置について予算を付けていただきまして、本年度、臨床心理士を1名ですけども、こども相談員として、主に小学校を中心に週2日、巡回等々対応していただいております。保護者の対応や子どもたちの対応に、助言等していただいております。

以上、少し長くなりましたけれども、ハード面・ソフト面等々、概要ではありますけれども説明させていただきました。以上です。

町長

ありがとうございました。ただいま報告がありました件につきまして、皆様から何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

稲教育委員

もし差し支えなければ、学力調査の結果をもう少し詳しく教えて戴けますか。

湯山教育委員

合わせて、学習状況調査から見られる小山町の子どもたちの様子も教えていただければと思います。

町長

教育委員会、お願いします。

学校教育専門監

はい、それではよろしく申し上げます。先ほど次長のほうから説明がありましたけれども、こちらのリーフレットのほうを見ていただければと思います。

9月と10月に先生方にも集まってお聞き、学学調査の検証委員会を行いました。細かな点につきまして、「こんな点が成果だったね、課題だったね」といった内容を、ここに端的に書き並べてございますので、説明させていただきます。

まず、小山町の調査結果の概要という所を見てもらいたいのですが、小学校では国語・算数共に、全国平均をやや下回っています。県平均も少し下回っています。中学については、国語・数学は全国平均・県平均を大きく上回り、英語については先ほどもお話がありましたが、かなり大きく全国平均を上回っております。これは正答率で比較をするんですけども、色々な県の平均正答率などから見ても、かなり小山町の正答率は高かったです。

次に細かな点を言います。まずは小学校なんですけれども、基礎的な力については漢字であったり計算力であったり、中学に入っすぐに子供たちの力がビュンビュン伸びる訳では

ありません。小学校でこういった基礎的な力をしっかり付けてくれていることが、中学に入って今度は目標を持って、進路とかに向かって勉強するときには伸びる力になっているのかな、と思います。ただ、先ほどもちょっとあったんですけど、「自分で読み込んで、それを表現する」「書いたり話したりして相手に説明する、伝える」というところに、やはり課題があります。自分では理解しているつもりでも、それがなかなかできないということで、正答率が少し低くなっているようなところがあります。小学校算数でいうと、基礎的な計算とかはできるのだけれども、応用や発展力に少し課題があります。やっぱり自分の思い、伝えたいことを明確にして正確に説明する力、相手に正しく分かりやすく伝えられるような力をこれから付けていく必要があるのかな、と思います。

次に中学校については、裏側のページになります。小学校で付けてくださった基礎的な力に上乘せする形で中学校の力がある程度安定して、ここのところ小山町の子ども達に出ているように思います。国語の成果のところには全てが表されているのかな、と思うのですが、取り込む力、インプットする力はあるのだけれども、先ほどから言っているように、それをアウトプットする力が、課題として挙げられます。解かってはいるのだけれども、正しい言葉とか説明力で、根拠を持って表現することが課題かなと。その辺を授業の中でもやっていかなければならないのかな、と思います。スマートフォンとかインターネット世代・・・というのも、その一つの原因になっているのかな、とも思います。数学に関しては基礎的な力や計算力はあるんですけども、やはり問題を正しく読んで答えるという所で少し課題があります。英語については先ほどもありましたが、英語に対して小山町の子ども達って、全然抵抗が無いというか、興味・関心を持って、すごく意欲的に学んでいるんだな、といったところがこの結果からわかります。英語検定に積極的に参加しているというのも、理由の一つに挙げられるんじゃないかな、と思います。おかげさまで、どの分野についても非常に高い正答率を示していて、今回は本当にいい結果が出ておりました。ただ、やっぱり自分の思いを英語で表現するとか、外へ出すというところに少し課題がありますので、その辺を日本語と同様、これから先の授業等で力を付けていけたらいいのではないかな、と思います。

そして見開きのページになりますが、この調査では英語とか国語とか算数とかの調査だけではなくて、質問紙というのがあって、生活について子ども達が答えるアンケートがあります。それらを見ると、これも毎年の傾向なんですけれども、やはり規則正しい生活をしている子ども達、またボランティアとかに積極的に参加して豊かな心が育っている子ども達、健やかな心身が育っている子ども達については、学力でも安定した力を発揮しているということが言えます。全体的に小山の子ども達は、さっきの金太郎博士じゃないんですけども、外に出て、色々な人達と関

わることが決して嫌いではないですし、その中で育ててもらっているな、というふうに思います。これからも、そういう生活の部分を大事にしながら子ども達の学力の定着、向上に努めていけたらいいな、と考えております。

また、町の支援員さん等の人的支援も、学力を向上する上で非常に大きな力になっていることも間違いないと思います。以上です。

町長

ありがとうございました。よろしいですか。他にはいかがですか。

相原教育委員

ハード面の方で、今年度エアコンの設置を各小中学校及びこども園等にさせていただきました。私の娘も中学校に通ってしまして、「すごく快適に授業を受けることができる」と言っていました。ただ私どもの不安としては、「子ども達がエアコンの設定温度をしっかりと守っているのかな？」とか、「子ども達がいたずらしないかな？」とか色々あるんですけども、やっぱり汗をかくことで落ち着きがなくなっちゃう子どもも居ると思うんです。そういう子ども達もしっかり授業に集中したり、学校生活をしっかりとできたりしているということで、大変ありがたいという意見なんかもありました。

あと、給食費の無償化に関してなんですけど、これも色々聞いてみたんですけど、やはり「ありがたい」「すごく助かる」という意見が多かったです。でも中には「義務教育なので、やはり親が多少は負担するべきである」なんていう意見も少なからずあった・・・ということも、ここで報告させていただきます。あと、ふるさと金太郎博士に関してですけど、これに関しては、子ども達がノートを持って、本当に積極的にイベントに行く姿をよく見かけます。私も色々な活動に出ていますけれども、子ども達がよく「ハンコウどこで押せばいいの？」とか、そういう言葉も聞きますし、「博士号までどうしたら行けるのか？」「金賞・銀賞をもらうには、あとどれぐらいやればいいのか？」とか、ポイントを貰いたいということもそうですけど、やっぱり金とか銀とかの“バッジ”ですよ！ やっぱりアレを持っている子がいると「羨ましい！」という子ども達の声も聞きますので、是非、今後もポイントが貰える様々な活動をどんどん増やしてもらって、子ども達をもっともっと地域に出て、ノートを持って駆けずり回ってハンコウを押す姿を見たいと思いますので、その辺もまたよろしくお願いします。以上です。

町長

ありがとうございました。エアコンと給食費と金太郎博士ですが、教育委員会から何かコメントはございますか。

こども育成課長

はい、まずエアコンに関しましては、町として「エアコンの運用方針」を策定いたしました。それに則って、各学校・園等も、来年からが本格的な運用になるかと思えますけれども、その方針に従ってやっていただけるように指導しているところであります。

#### 生涯学習課長

私からは、ふるさと金太郎博士事業に関してでございます。やはり相原委員が仰るように、子ども達が地域に出て、ポイントをゲットして、そうすることで地域への誇りと言いますか、そういうものが得られるように、我々としましても、鋭意そういった活動の情報を収集しています。町の行事は勿論ですが、地域の行事ですとか、なかなか我々でも知り得ないようなものも多々ありますので、そういったものもしっかりと把握して学校のほうに情報提供し、また広報紙等でも知らしめて、子ども達が「どれにしようかな？」と迷うぐらいの情報を提供していくことが肝要であると考えております。それともう1点ですが、夏休み期間中に集中して、町内の事業所ですとか企業見学を、本年度は11社のご協力をいただいて実施をいたしました。それぞれ、各受け入れ側のほうで趣向を凝らして、子ども達に解りやすいように工夫をしていただきました。子ども達を支えてくれる地域と言いますか、企業側の理解も非常に得られているな、と感じましたので、このあたりもしっかり進めていきたいと考えております。

#### 町長

給食費については何かコメントはございますか。

#### 教育次長

特にございません。

#### 町長

はい。他にはございませんでしょうか。・・・無ければ私の方から。まず、国語でインプットは良いけど、アウトプットに課題があるということですが、今回、ICT、タブレットの導入をしているんですが、このアウトプットの力を付けていくということについて、このタブレットの使い方をどのように考えていますか、これが1点。

もう1点は、今回の発表は“学習”についてなんですが、その一方で“体力”についても、私は子ども達の成長にとって非常に重要であると思います。その体力についてはどのように測定されて、それについて全国平均とかがあるんですしたら、小山町の子ども達はどのような状況なのか、このあたりを教えてもらいたいと思います。

#### 学校教育専門監

はい、それでは、国語のアウトプットする力をタブレット使ってどういうふうに伸ばしていくか、という点についてです。タブレットにはペンとかが付いていて書いたりすることもできます

し、今まで使っていたノートなどの代わりとして…、ノートだと、黒板にいちいちそれを書いたりとかするけど、その手間を省いた状態で、ピッと子ども達の書いたことが黒板に写せたりもします。上手にそれをノート代わりに使いながら、自分がまとめたものを必ず言葉にして、お互いに意見交換をするような形でタブレットを使っていけるのかな、という様に思います。

ただ、すぐそこに結びついてくるかどうかというのは判らないんですけども、本当に使い方ひとつで変わってくると思いますので、是非、授業の中に有効に取り入れていただいて、子ども達がアウトプットする時間をそれによって確保していくっていうように活用していければいいのかなあ、私がもし授業の場に立つとしたら、そんなふうにするかな、なんて考えました。

また、これから先、先生たちがそういう部分を研修なんかで深めていく必要があるんじゃないかな、なんて思います。

次に「体力」ですけれども、「体力テスト」はやっておりますが、それで出てくる結果というのは、決して他と比べてズバ抜けて良い、ということはありません。例えば、走力であったり握力であったり、結果を全部まとめて県に送って、他と比べてもするんですけど…。ただ、部活動の面なんかで、朝の部活動・朝運動なんかをやっている学校も多くあります。例えば自分がいた須走中では、駅伝の練習を朝部活動の前にやっています。そこに、体力増強を目的で参加しても良いよということで、結構多くの生徒が参加していました。この間の川野君なんかも、きっとそういう中で走ることを身に着けてきて、今、花が咲いているんだと思います。そういう中学校などもありますし、小学校では朝からみんなせっせと走ったりしております。人数が少なくてあまり競うことがないので、そういう中でも子ども達の気持ちを上手に盛り上げて行きながらやったら、体力も今まで以上についてくるのかな、っていうふうに思います。 以上です。

#### 町長

全国で比べると、例えばボール投げのこととか、何かそういうのがあったような気がするんですけど…。そういうものはありませんか。

#### 教育長

確かに、小山町は小学校5年生の「投力」が非常に弱かったです。それによって、各学校はそれを課題として、色んな講師の先生を呼んだりとかして、ボールを投げるっていうことに取り組んだ結果、結局「投げ方が良く解っていない」ということが一番の原因だったものですから、それを体育の授業でやったりしました。また学校の中では、明倫小みたいに“ドッチボール”を徹底的にやって投力をつけるなど、意図的な指導をしている学校もあります。まあ、その後の結果は来年度解ると思いますけれども、それはちょっと楽しみにしています。

## 町長

先ほどもちょっと話が出ましたが、今回の川野君とか、野球の鈴木選手とか、駅伝の下田選手とか、小山町はトップアスリートが非常に育っていると思うんですね。これは凄いことだなあと思うんですが、教育委員会として何かその要因というか、こういうことが良くて…、例えば坂が多いとか、標高が高いとか、まあ分析までは行かないでしょうけど、何か感想は持たれていますか。

## 学校教育専門監

確かに須走なんかは高地トレーニングになっているなって思います。空気が結構薄いので、「ここでずっと走っていれば私もちょっと早くなれそう」って思っていましたけど、実際はそれほど走っていなかったのが全然駄目でした。それに坂道という点では、小山中では駅伝の子たちが、すぐその坂道をグルグルグルグルと、私が勤めているときもみんな走っていました。あと、やっぱりそれだけじゃなくて、鈴木大地君が中学生だった時、私はちょうど小山中にいたんですけども、体力だけでなく心が育っているな、という印象を受けました。下田選手や川野選手も同じだと思います。色々な人たちにたくさん関わってもらったり、自分から関わったりする中で、勉強もすごく頑張っていたし、つまり「野球なら野球だけ頑張ればいいや」ではなくて、いろんなことをバランスよく頑張っていたのだと思います。人として伸びる素質を持っているような子ども達を小山の学校では育ててくれているんだ…これは保護者の方も地域の方も含めてなんですけども、そういう土地柄っていうか、人の温かさみたいなものが、トップアスリートを育てているというか…、のんびりしている田舎っていう感じもするんですけども、こういった小山町の良さみたいなものが、子ども達に反映されているような気がするな…と。すごく漠然とした感想なんですけども、私は教育現場にいて、そういうことを感じました。

## 町長

先ほどもお話がありましたけども、豊かな心が育ってくると学力も伸びてくる。それはスポーツ、体力の面でもそこに繋がるのかも知れないですね。川野君なんかと話していると、非常に豊かな心を持っていて、本当に心優しい素晴らしい青年だなあとというふうに思いますからね。

他に皆さんから何かございますか。よろしいですか。

それでは次の会議事項であります、学校施設の今後の方針について、ちょっと皆さんのご意見を伺いたいと思います。まず、教育委員会から何かございますか。

## 教育次長

はい、それでは現在の小中学校の人数なんかをデータ化した資料をご用意させていただきましたので、まずはそちらのほうを説明させてもらおうと思います。先ほどの資料の12ページからになります

す。12ページは小中学校の生徒数の前に、小山町全体の人口がどうなっているかということで、このデータは「小山町の教育 平成31年度版」の抜粋であります。

それでは小山町の人口の状況ですけれども、こちらに書いてありますとおり、昭和35年がピークで、この棒グラフで表しているように、2万9千人に届く手前のところです。それで、昭和60年と現在・平成31年との比較を手書きで書いてありますけれども、4,282人、全体で減少しています。減った率ですけれども、ちょっと資料には書いていないんですけれども、全体では18.8%の減となっています。これを地区別で見えますと、本当に顕著に出ているのは小山地区になります。小山地区とは、成美と明倫ですね、これを合わせた人数でありますけれども、60年と比較しますと、4,285人の減となっていて、率で言いますと39.7%の減です。逆に足柄は60年との比較でいきますとプラス283人となっていて、率は16.9%の増であります。北郷地区は若干の減で76人減、率で言いますと1.3%の減。須走地区も若干の減で、4.5%の減です。こうして見ると、小山地区の人口減少が、本当に顕著に出ているのかなあ…というふうに思います。

それでは小学校の状況でありますけれども、13ページの下表になります。小学校在籍者数の推移です。こちら各年で書いてあるわけですけれども、このグラフの中では、今言いました昭和60年が一番多くなっております。全体で2,027人。平成30年がどうかと言いますと、955人。こちらに手書きで書いてありますとおり、1,072人、約53%の減となっています。先ほど申し上げましたとおり、人口ですと18.8%の減でありましたけれども、小学校の児童数でいきますと53%弱の減ということで、やはり“少子化”っていうのがこの割合からも判るのかなあと思います。次に内訳になりますけれども、やはり成美と明倫が、それぞれ69.2%減、60.6%減となっていて、やはり小山地区の人口減少が小学校でも顕著に表れる結果となっています。足柄・北郷・須走については、概ね45%前後の減という状況となっています。

次のページ、中学校はどうかといいますと、中学校も同じような状況が出ています。昭和60年を基準に見ますと、全体で1,040人であったところが平成30年では428人、612人の減。58.8%の減となっております。こちら傾向は同じで、小山中学校が63.6%の減となっております。

次に幼稚園の人数であります。こちらは「園毎」個別に出ておりますが、一番右下の合計欄をご覧ください。一番多い時が昭和50年の442人、その後、幼稚園は預ける人数がどんどん減っております。平成30年では141人ということで、率にすると68.1%の減であります。

16ページは保育園・こども園の状況です。途中からきたごうこども園が入ってきているわけですが、一番下の合計欄のところを見ていただくと、昭和60年が一番のピークで538人となっております。ただ、平成7年からですけれども、ご覧のとおり預ける人数は、保育園・こども園のほうは年々増えてきております。このような傾向が見てとれると思います。



以上、人数の関係につきましては、ここまで説明したとおりでございます。

次に、小中学校の施設、ハードのほうの説明ですけれども、17 ページの上に小学校、下に中学校の校舎の整備状況を示しております。成美小学校が、昭和 59 年の 7 月に校舎を建設しております。現在、成美小学校が一番古くなってきております。人数も少なくなっている中ですが、校舎もかなり古くなってきている状態です。続いて明倫小学校も成美の 1 年後の建設で、昭和 60 年の 7 月、足柄がその 1 年後の昭和 61 年ということで、この成美・明倫・足柄の校舎が建物としてはかなり古くなってきております。そういった意味で、長寿命化であったり、建て替えの時期等々、考える時期に来ているのかなあとと思います。そして北郷は平成元年の 3 月、須走小学校は昭和 62 年の 10 月ということになっています。

中学校につきましては比較的新しい校舎です。小山中学校が平成 22 年、北郷中学校校が平成 8 年、須走中学校が平成 17 年となっております。

資料は前後しますが、13 ページに幼稚園・保育園・こども園の施設の出ています。駿河小山幼稚園は、平成 22 年に改築等しています。足柄幼稚園は昭和 62 年、須走幼稚園につきましては平成 13 年。保育園のほうでちょっと古くなってきているのは、いきど保育園の園舎が昭和 59 年。そして須走保育園が一番古くて、昭和 53 年の 3 月に建設をしております。すがぬま保育園、きたごうこども園は、以下のとおり平成になってからの建築であります。

以上、データから見ました児童・生徒の人数の推移と、建物については建築年月日が主なんですけど、このような状況となっております。以上で説明を終わります。

#### 町長

ありがとうございます。只今、小山町の人口の推移、児童・生徒の状況、それから施設の状況等について説明をしてもらいました。順番に、まず幼児施設ですね、来年度から全てがこども園に移行ということになっておりますが、この点につきまして、委員の皆さんから何かご意見、お考えがありましたらお聞きしたいと思います。

#### 山岸教育委員

私も保育士、学童保育の指導員の経験がありますが、以前と比べて少子化が進んで、また、地域を取り巻く環境も大きく変わってきています。子どもたちの居場所をしっかりと安定的に確保していくこと、そして忙しい保護者が安心して子育てができるように支援していくことも重要だと考えています。様々な面から、幼児教育に力を入れている小山町の考え方は良いのではないかと思っています。

#### 湯山教育委員

学者の中にも、教育の中では、どこが一番お金をかけた方が効果的なのか、つまりコストパフ

オーマンズっていう面で語る方がいらっしやいまして、それは“幼児教育”にお金をかけるのが一番効果も多いし、その後の見返りも非常に多くなるっていう説がございます。私も多分その可能性っていうのが一番高いんだろうなって感じております。特に環境が変わりまして、昔は、まず家庭の中での教育が自然に行われていまして、3世代くらいの家族の中で色々な教育が行われて、それで地域へ出ると今度は地域の教育が待っているわけですけど、現在は家族も核家族化しましたし、そして地域の教育力っていうのも、ちょっと形を変えつつあります。

そういう意味では、“こども園”という中で、計画的に・意図的に、育ちを促していかないといけない時代になってきたのかな、というふうに感じております。そして色々な研究の中では、その機会を逃すと、将来的に見ても取り返すことのできない部分っていうのが沢山あって、また、その時期でしか育たないものっていうのもあって、それを逃すと、いくら栄養を与えても、その後いくら教育を施しても、育ちにくい部分が出てきてしまうということです。やはり幼児教育を充実させて、そして人口減少の問題もあるんですけど、「あっ、いいな」「こういう所で自分の子どもを育てたいな」って思われるような、そんな形になっていくと一番望ましいのかな・・・というように思っております。

#### 稲教育委員

足柄では幼稚園が縮小し、あと1年で閉園となります。菜の花こども園は、今、地域の園として根付いてきていると思います。今年の足柄幼稚園の運動会は、足柄小学校のお兄さん・お姉さんたちと一緒にやったんですけど、子どもたちは多くのお兄さん、お姉さんに囲まれ、とても楽しそうでした。大勢の人との関わりは幼少期の子どもたちにとって、とても大切だと感じました。

#### 町長

私も行きましたけど、あれは非常に良かったですね。

#### 相原教育委員

私は小山地区なので、今問題になっている、いきど保育園と駿河小山幼稚園の分離型のこども園について。説明会が2～3回開かれて、私も顔を出させていただきました。やはり最初のうちは、送迎の事に対し、分離なので兄弟をいきど保育園と駿河小山幼稚園に同時に送っていくのは大変だっという話がありました。そこを教育委員会のほうで、「兄弟はいきど保育園へ」という形にしたことによって、多少の不安・不満は無くなって来たんですが、それでもまだ、やはり新しいことを始めるとなると不安もありますし、また不満も出てくるということで、まだ保護者の方々は納得していない部分が多々あると思います。また、そういう声も直接聞いたりもしています。

じきにそういう形になるということなので、全部が全部を解消することはできないと思うんですけど、お互いに寄り添うというか、保護者の方も「しょうがない。こっちのほうは子どものた

めになるよね。」という考えを持ってもらうように進めて行かなければいけないと思います。また、教育委員会のほうも“保護者の意見”、例えばトイレの数が足りるのかどうか、という意見もありましたので、直せる部分は少しずつでも改善していければ、教育に関してはお互いに良い形で出来ていくのではないかな、と思っています。今後、その辺の保護者の不安感・不満感をどのように解消していくのか、という所がちょっと気になります。

## 教育長

はい、送迎の話も含め、色々な話がありました。これは、お互いに相手を理解しながら、少しずつ折り合いをつけてやっていくということで、私たちは送迎については、やっぱり兄弟のいる方の負担感は無くしていこうということで折り合いをつけましたが、今度は「分離が嫌だ」という課題が出てきたんです。でも、“子どもの育ち”を考えますと、昔から言われているように「三つ“心（こころ）”、6つ“躰（しつけ）”、9つ“言葉（ことば）”、12“文（ふみ）”、15“理（ことわり）””というように、日本に江戸時代から続く伝統的な教育があります。要するに「3つ子の魂100まで」じゃないんですけど、やはり3つまでは本当に静かな環境でしっかりと人と関わって安定的に育つということが大事です。それから3歳になると、今度は友達を求めますので集団の中で遊ぶようになる。その中で、遊びをしながらルールを覚えるんです。それが躰（しつけ）に繋がっていく。「大勢の中で声を出しちゃいけない」とか、「ここは静かにしてね」とか、「そういう嫌な言葉を使っちゃいけないだよ」とか、そういうことをそこで覚えるということで、やはり3歳から5歳は意図的な教育課程を作って育てていくということで、私は分離について不安はないと思っています。かえって良い効果を与えることの方が多いと思っています。

そういうふうにして、これからの時代を生き抜く子ども達のこと、そしてその子ども達がこれからの時代をつくっていくわけですので、しっかりした安定的な教育環境を作っていくことが大事だと思っています。

先ほども、小山にはどうしてこういう子ども達が育つんだろうという話も出ましたけれども、要するに心が豊かに育つというのは、「がんばる力」とか「相手を思いやる」とか、そういった目に見えない心の育ちのことであって、これを私たちは「非認知能力」と言っています。これに対し、学習状況調査のようなテストで測るものは「認知能力」と言います。小山の場合、幼児教育も充実しているんだと思いますけど、この非認知能力を上手に育ててくださっているな、と感じます。その非認知能力を育てていくためにも、今のような形で先生たちが意図的にしっかりとした環境を作って教育活動をしていくことが良いのかな、と思います。

それから、先ほど体力の話もあったんですけど、やはり広い場所で思い切り走ったりとか、思い切り友達とボール投げをしたりして遊ぶとか、そういう環境も大事だと思いますので、出来る

だけ広い所で遊ばせてあげたいなと思っており、是非、子ども達にそういう良い環境を与えていきたいな、と私は思っています。今は駿河小山といきどは別れてはいますが、早いうちに、もっと広い場所で遊べるように、一体型のこども園を設置していくことが必要ではないかな、と私は思っています。

小山の幼児教育は非常に充実しています。先生方も本当に良く勉強して頑張っていますので、これは他にはなかなか無いことだなと感じています。先生方は本当に質が高く、一生懸命ですので、更に一層、この小山の幼児期の教育を充実できたらいいなと思っています。そして、一体型を何とか早く進めたいと思っています。以上です。

#### 町長

私のほうからですけど、先ほど相原委員さんがお話しされたとおりだと思います。こども園の重要性・必要性っていうのは皆さん納得している、というふうに思っています。ただ、分離型ということで、私も先日会合に出ましたけども、いきど保育園と駿河小山幼稚園の送迎とか、そういう不安を持たれている保護者が居るっていうことは事実でございます。そういう保護者の皆さんの不安に、本当に親身になって、寄り添って聞いていく。そして、できる事はやって行く。こういう姿勢が一番重要じゃないかな、というふうに思っています。また、これからの話でありますけども、成美の建て替えという話もございますので、例えば一体型の施設をですね、どこに設置するのか、といった議論も大変重要な課題でございますので、そういった施設整備につきましては、特に総合計画を再来年の4月を目途に、町民の皆様の意見を十分に聞きながら策定をしていくということになると思いますので、その総合計画の中でしっかりと示していく、ということが必要だと考えます。

現在、不安を持っているという保護者の皆さんには、先ほども言いましたとおり、寄り添って、しっかりと説明をして、できる事はやって行く。そして、町内全園のこども園化がスムーズに進んで行けば、良い子ども達が健やかに育ってくるんじゃないかなと、思います。

では次に、小中学校のありかたについて、何かありませんか。

#### 稲教育委員

足柄もついに90人になってしまいましたが、足柄では、地域で子供をそだてるという風潮があります。ふるさと金太郎博士事業で、子ども達もよく参加してくれています。ハロウィンなども小山高校生も参加して、盛り上げてくれています。小さな学校だからできる「椿しぼり体験」「そば打ち体験」といった活動もしています。学力も先生方が頑張っていてしっかりと付けていることに、すごく感謝しています。

#### 山岸教育委員

須走の人口が減少しているのは聞いているんですけども、これは自衛隊の部隊の編成替えがあった影響も大きい、というように聞いています。…が、須走で行われる各行事や、お年寄りとの触れ合いの中で子ども達が育ち、地域の大人たちも元気なパワーをもらうなど、大きな影響を受けています。小さな地区でも、須走小学校・中学校があることによって賑やかになって、活気ある地域となっていることから、学校の役割の大きさを感じています。

#### 湯山教育委員

私は明倫小学校で、確かに人数もたくさん減っていますけれども、先日、町長さんにも明倫小まつりをご覧いただいて、多分感じられた部分があると思いますが、人数は減ったものの、本当に1人1人が輝いているって言いますか、役割を持って自分を表現しているなど。数は減ったものの、内容的には、本当に良い教育が行われているんじゃないかな、と感じております。

また、稲作の事なんかを5年生がやっています、本当に畔（あぜ）作りからやっていて、水も地域の人に来て、黒板に「今日は水を減らせ」とか「増やせ」とかメモしていってくれて、子ども達がそれを見て、実際に田んぼに行って水を調整して、そういう水管理までずっとやって、そして稲刈りまで漕ぎ着ける…、そういうふうに、地域が一体となって子ども達の育ちを押し回っているかそんな感じがして、まあ数は減っていますけれども、良い状態にあるんじゃないかなと、改めてこの前の明倫小祭りの時にも感じた次第です。

#### 相原教育委員

僕は成美小学校出身で成美地区なんですけども、この表を見ても成美地区の生徒数の減少というのは、5地区の中でも一番大きいんじゃないかと思います。僕がPTAの会長等をやっていた当時、生徒数は200人弱で今は150人なんですけど、その頃と何か変わったかという、子ども達は一人一人が生き生きと活発に活動しています。みんなそれぞれ一生懸命色々な活動に専念している姿は、変わらないなあというふうに思います。

今後、上野に工業団地等が建ちます。また、成美小学校は富士紡と共に成長してきて、人数も増えてきた地域です。そういう会社等が来た時に、そこに通う人達が住める場所ってというのが、小山地区というか成美地区にできれば、少しずつでも人数が増えていくと思いますし、また、活気も出てくると思います。

ただ、人数が少ない分、大きな学校と比較して、学習面・運動面で違いが出てくるのかなと。今後、中学は小山町なんですけど、高校、更にその上に行ったときに「差」が出てくると、やはり少人数ってどうなのかなって意見も出てくると思いますので、そのあたりの“影響”というものがどんな感じなのかな、という所をちょっと聞いてみたいです。

## 教育長

子どもの育つ力には、小集団でつく力、それから大きい集団で育つ力といろいろあります。どちらもそれぞれの良さがあります。小山町の場合、小集団でつく力、人と人との濃い付き合いっというんですかね、それがすごくいい形で育っているのではないかなあと思っています。大集団の中で埋もれてしまうっていうよりも、1人1人が前面に出て、自分に自信を持って育っているんじゃないかなあと思っています。

実は平成22年度に、これからの小山町の学校のありかた検討会をやっています。これは10年に1回ずつのものです。その折に、1学級8人以下になるということは、複式学級になってしまうということなんですけれども、“複式になった場合には”、学校の事を色々検討していくことが必要なんじゃないかなあと意見をいただいております。しかし今現在、そして近い将来も見てみますと、複式になることは今のところはないのかなあと思っています。ですから各小学校、人数は少ないですけども、その良さを活かした教育をしていくことが大事かなあと思っています。

もう1つ良いのは、現状のまま各地区に1つずつ学校があることによって、地域の教育力もそこで高まっているというか、学校と地域の関わり合いが良くなっているのかなあなんて思います。将来的にコミュニティスクールを考えていく時には、この形を考えていったら良いのではと考えております。ですから、各学校小さくても、学校の魅力を作り、そして一人一人の子ども達を育てる、という学校を作っていくことが必要だと思います。今の子ども達が、これからのまちを作っていくので、“みんなで”、“社会総がかりで”応援していただけるとありがたいかなあと思っています。以上です。

## 町長

私も教育長も団塊の世代ですから、小山中学校は9クラスあって、そんな中で育っているんですけど、先日、「足柄」「明倫」に行かせてもらいまして、「すごいなあ、素晴らしい取組をやっているなあ」と思いました。子ども達を育てるっていうことに関しましては、地域、学校、行政、そして家庭が、しっかりと連携をしていくということが一番重要だと言われておりますけれども、小さな学校であるが故にできるということもあるかと思えます。ですから、それをマイナスに捉えるんじゃなくてプラスに捉えてですね、「いろんなことができやすい所だな」と半面思いますので、人口は直ぐに増えるものじゃないですから、先ほど申し上げましたように“地域連携”を取りながら、良い子ども達を育てて行ければな、と思います。

もうひとつ、そういう点では、学校の空き教室なんかもあるんじゃないかと思えますけども、そういう所を地域の皆さんに開放していくと…。そういう、言わばハード的な面でも、地域・学校・家庭が連携できるような仕組みを作っていく、というようなことも検討していかなければな

らないと思いますし、またそれをやっ行って行かないと、学校の有効活用も図れないなと思います。

いずれにいたしましても、再来年の4月、総合計画がスタートするわけですので、それまでの間にですね、色々な皆さんの声を聞きながら、また、ハード整備、つまり箱物については限られた財源ですから、これは一編にはできません。ですから「どういう順序で」「どのように」「どこに作っていくか」というようなことは、総合計画の中でしっかりと計画をしていく予定でありますので、その際にも、皆さんのご意見をいただきたいな、と思います。

議題といたしましては、以上で終わりにさせていただきたいと思いますが、皆さんから特に何かございますか。

無いようでしたら、座長はこれで退かせていただきます。では、進行のほうにバトンタッチをいたしますので、よろしく願いいたします。

## 5 その他

## 6 閉会

### 町長戦略課長

ありがとうございました。それでは、以上を持ちまして、令和元年度 第1回総合教育会議を閉会とさせていただきます。皆様、お疲れ様でした。

この議事録の記載事項に異議なく、ここに署名する。

令和元年 12 月 13 日

小山町長 池谷 晴一

小山町教育長 天野 文子